

指導・支援シート（提出事例についての指導支援の概要）

主任介護支援専門員としての指導支援期間	令和 5 年 1 2 月から令和 6 年 3 月まで
バイザーとの関係性	同法人内の居宅介護支援事業所

■ バイジーについて ※バイザーとバイジーのやりとりの中で捉えたこと

基礎資格	介護福祉士	介護支援専門員としての経験年数	1 2 年
強み・良さ	これまで特養、老健での施設ケアマネの経験があり、施設ケアマネジメントの知識がある。		
苦手なこと	事例の展開が早い、動きがある支援は、対応が後手になることがあった。		

■ バイジーの課題

バイジーがこの事例で捉えた介護支援専門員としての課題	バイジーは、民生委員や近所の方から次々と状況の連絡が入り、特に民生委員からは自宅での生活は難しいと言われているので、どう対応すべきか正直困っている。バイジーである私自身が地域の方とどう連携すべきか、が課題だと思っている。
バイザーがこの事例で捉えた介護支援専門員の課題	バイザーとしては、バイジーは地域の方々からの連絡の対応に追われ、介護保険サービス以外の支援者（地域の方）も含めた本人を支援するチームという視点に気づいていない、と思われる。バイザーとしては、介護保険サービス間の連携はできていると評価したが、地域の方々との連携がバイジーの課題だと考えた。

■ 指導支援の経過

年月日	バイジーの事例に対する働きかけ・困りごと	バイザーの理解・判断・働きかけ
令和 5 年 12 月 ● 日	事例について相談あり。 本人は認知症がすすんでおり、自宅から頻回に外に出てしまい、近所の方が連れ帰ってくれている。その都度、近所の人から連絡が入る。また、民生委員からは、危険だから施設入所を考えては、という連絡があった。 実際に外に出てしまうが、本人なりの理由があり、また、本人も家族も、自宅での生活を希望しているので、民生委員にもそのように説明するが、うまくいかない。	バイジー自身、自宅から外に出ることについて、具体的なアセスメントが不足していると判断し、アセスメントを本人の視点から行うように伝える。 具体的には、支援を開始した 2 か月前からの回数、日時、その時の状況、どこに行ったのか、その理由を確認するよう伝える。また、いつから外に出ようになったのか。サービスは、週 2 回の通所介護から始め、現在は週 4 回の利用のため、その影響も検討するように伝える。 民生委員等へのはたらきかけは、上記のことが理解できてから検討することとなる。 一方で、本人や家族の意向をきちんと把握できていることを、できていることとして伝える。
令和 ● 年 ● 月 ● 日		

※枠が不足する場合には、適宜追加して作成して下さい。ただし、この指導・支援シートは、全部で2ページになるようにして下さい。

■バイザーの振り返り ※指導支援を通して

うまくいった点	自分だったらと言いたいことを抑えて、バイザーの理解に合わせてすすめることができた。自分の得意とする認知症ケアだけではなく、地域との連携、何よりも家族への支援という視点まで考えることができた。
苦慮した点	最初、バイザーの課題をうまくつかむことができずにいた。本人を施設に入れたいのか、民生委員から言われて困っているのか、分からず、初回の相談が一番時間がかかってしまった。
自分自身の強み	グループホームの経験もあることから、認知症ケアにはある程度知識を持っている。また、その時のつながりで、民生委員と顔の見える関係にあり、連携をとりやすい。
バイザーとしての成長課題	どうしても、バイザーが行ってきた支援に対して、白黒をつけてしまう傾向がある。特に、自分が得意としている認知症ケアに関わると、ちょっと熱くなってしまう。 バイザーの立場に立ち、バイザーがどう困っているのか捉えることが課題だと考える。